

## 第 28 回日本薬物動態学会年会(船堀)時に開催された各種委員会報告について

第 28 回日本薬物動態学会年会時に、各種委員会が開催されました。各委員会の開催日は以下の通りです。

10 月 9 日(水):総務委員会、財務委員会、学会活動活性化委員会、NL 編集委員会、Web 委員会

10 月 10 日(木):フォーラム委員会、DMPK 編集委員会

10 月 11 日(金):DMPK 活性化委員会、国際対応委員会

### ■総務委員会議事録

日 時:2013 年 10 月 9 日(水)12:35~13:35

場 所:タワーホール船堀 405 会議室

出席者:(敬称略)細川正清(委員長)、榎山英二(副委員長)、伊藤晃成、奥田真弘、  
金尾義治、倉田知光、成松鎮雄、渡辺善照

欠席者:成松鎮雄、金尾義治

・細則の改定について

### ■DMPK 編集委員会議事録

日 時:2013 年 10 月 10 日(木)12:20~13:20

場 所:タワーホール船堀 4 階 404 号室

出席者:(敬称略)玉井郁巳(委員長)、小澤正吾(副委員長)、泉 高司、加藤将夫、  
出口芳春、頭金正博、橋本征也、細川正清

(オブザーバー2名)山崎浩史(次期委員長)、今井輝子(DMPK 活性化委員長)

(DMPK 編集局)野田のり子

欠席者:(敬称略)谷河賞彦、山田英之、Suk-Jae Chung、Jin-Ding Huang

審議事項および確認事項:

#### 1. 委員長及び次期委員長の挨拶

会議に先立ち、玉井委員長が本年 12 月をもって編集委員長の任期を終了され、来年より山崎浩史先生が編集委員長に就任されることになった旨、玉井委員長より報告され、両先生の挨拶があった。なお、編集委員長の任期は原則として4 年とする旨、学会細則の変更があったことが紹介された(アンダーライン部分の追加)。

#### 2. 投稿の現状

資料 1 に基づき 2012 年、2013 年の投稿論文の国別投稿数、判定について玉井委員長より説明があった。Impact Factor(IF)が下がっていることから、以下の対策を推進していく必要性が指摘された。

・reject 率を上げる。

・掲載論文数を絞る。

・IF に比較的貢献が高い Review を可能であれば各号掲載する。編集委員が選ぶ invited paper の執筆者選定については、本年末に退任される小澤副委員長より山崎次期委員長が引き継ぐこととなった。

### 3. 活性化委員会の要望及び活動について

活性化委員会からの要望で、Supplement がある論文をよりわかりやすくするために、各論文第 1 頁に「Full text and Supplementary materials of this paper are available at <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/dmpl>」(アンダーラインを追加)と 28 巻 5 号より記載することにした旨、玉井委員長より報告された。今井輝子活性化委員長より、本年度委員長を退任されるに当たり、次期活性化委員会では Editorial Advisory Board (EAB) メンバーの見直し、Conflict of Interest (COI) について投稿規定にどのように盛り込むかどうかを引き続き検討していただくよう、申し送り事項とされたい旨の発言があった。

### 4. テーマ号について

テーマ号用の Review と一般投稿された Review を、掲載する際区別するかどうかについて検討した結果、目次でのみ資料 3 のサンプルのように区別することとなった。

### 5. 編集委員の任期について

資料 4 に基づき検討した結果、編集委員の任期に関する内規を以下のようにすることとなった。

#### **Drug Metabolism and Pharmacokinetics 編集委員の任期と交替についての申し合わせ**

① Drug Metabolism and Pharmacokinetics (DMPK) の編集、発行のため編集委員を置く。編集委員は 15 名以内とし、多様な研究領域の研究者が含まれるよう配慮して編集委員長(理事)が委嘱する。

② DMPK 編集委員の任期は 2 年とする。

③ DMPK 編集委員は 3 期(6 年)を目処に交替する。

④ 交替時期は、編集委員の任期と人数を勘案して、編集委員長が決めるものとする。

これにより、小澤副委員長、加藤委員、橋本委員、山田委員が本年末で交替し、2014 年 1 月初旬を目処に山崎次期委員長が新メンバーを選んで、次期編集委員会を発足させることとなった。なお、玉井委員長は委員として残留せず、Senior Advisor に就任する。

### 6. 今後の編集・出版体制について

現在、DMPK 誌は小宮山印刷工業が印刷、学会誌刊行センターが編集局を担当しているが、出版経費の削減と、DMPK 誌を世界により強力にアピールするという観点から、外資系の出版社に委託を検討しており、既にエルゼビア、シュプリンガーに見積もりをとって、どちらかの出版社と来年に正式契約する予定で、理事会で了承されて話を進めていることが、玉井委員長より説明された。プランと検討事項は以下のとおり。

・2015 年より英文誌はすべて web 化(ペーパーレス)とする。

・web 化により広告収入(約 500 万円)がなくなっても出版経費が現状より大幅に削減できる。

・出版社が用意している購読モデルでは、論文はすべてクローズとなり、サイエンスダイレクト(電子

ジャーナル・電子ブックを掲載する世界最大のフルテキストデータベース)に組み入れられることにより、閲覧状況に応じて学会にキャッシュバックがある。

・ニュースレターを web 版のみとするか、出版するかについては、今後、検討する(出版する場合、200～300 万円の経費がかかる)。

上記により、小宮山印刷工業、学会誌刊行センターとは 2014 年をもって契約を終了することが玉井委員長より報告された。

#### 7. 科研費について

資料 5 に基づいて、玉井委員長より以下の説明があった。本年度の科研費の申請がとらなかつたことから、申請内容の一部見直しを行っており、国際的情報発信をより強力に推進するため、既に説明・報告したように 2015 年より外資系の出版社と提携し、完全 web 化することにより、海外へより強力に DMPK 誌をアピールする旨の内容を盛り込む予定である。については科研費の申請締め切りが 11 月中旬であるので、申請内容についての提案があれば、10 月末くらいまでに玉井委員長へ連絡するよう、各委員に要望された。

#### 8. その他

引き継ぎの都合上、29 巻 1 号までは玉井委員長が幹事校正までを行うこととなった。

以上

### ■DMPK 活性化委員会議事録

日 時:2013 年 10 月 11 日(金)11:50～12:45

場 所:タワーホール船堀 405 会議室

出席者:(敬称略)今井輝子(委員長)、斎藤嘉朗(副委員長)、石井祐次、伊藤清美、井上勝央、荻原琢男、細谷健一、矢野育子、吉成浩一  
(オブザーバー1名)玉井郁巳(DMPK 編集委員長)

DMPK 活性化委員会は、国際的なジャーナルとしての発展を目指して活動してきた。

#### 1) 投稿規程の見直し

1-1) 倫理に関する記述を改定した。

1-2) 利益相反についての新たな項目を追加するために、国内外のジャーナルに関する情報をもとに検討した。その結果、論文中に利益相反の項目を設けて記載するよう、投稿規程の改訂を進めることとした。

#### 2) 論文書式の見直し

サプリメントデータの有無に関して、J-Stage 上の目次ページでの掲載は、システム上困難であるため、論文 PDF file の 1 ページ目(所属の下、要旨の上)に表記することとした。既に反映開始済みである。

#### 3) テーマ号の立案・編集

2013 年および 2014 年のテーマ号は以下の内容で進めた。

2013年(第28巻)1号: Clinical Impact and Evidence of the Pharmacokinetics Change

Editor: Takuo Ohgihara

2014年(第29巻)1号: “The Cutting-edge of Clinical Therapeutics Based on Pharmacokinetic/Pharmacodynamic Theory”

Editors: Kenichi Hosoya, Katsuhisa Inoue

4) 今後のDMPK活性化委員会の活動について

テーマ号の立案・編集については、今後もDMPK活性化委員会の活動として継続する。Editorial Advisory Board (EAB)メンバーは、前回の改選から3年が経過していることから、見直しを行う。また、利益相反に関する内容の論文記載について、投稿規程を追加改訂する。

#### ■国際対応委員会議事録

日 時: 2013年10月11日 11:50~12:40

場 所: タワーホール船堀 404 会議室

出席者: (敬称略) 山崎浩史(委員長)、千葉康司(副委員長)、大槻純男、千葉雅人

委員長より、本日10月11日開催の韓国応用薬理学会における千葉寛次期会長の講演および打ち合わせと、来週10月17日韓国薬学会年会におけるJSSXとの合同セッションの開催について、詳細な経過報告があった。ISSXのアジア関連の今後の集会予定も委員長から報告された。

現在の課題を整理し、次期委員会への提言を自由に議論したところ、以下のように集約された。

国際対応は、特定の小さな交流から開始し、時間をかけて、共通の興味ある分野の相互交流や相互訪問に成長していくよう、地道な活動を継続していくことが重要である。

#### ■学会活動活性化委員会議事録

日 時: 2013年10月9日(水) 12:00~13:00

場 所: タワーホール船堀 404 会議室

出席者: (敬称略) 久米俊行、崔 吉道、齋藤秀之(委員長)、高野幹久、田川公造、西村有希、藤田健一

#### 1. 本年度の事業活動について

1) ベストポスター賞選考状況について、加藤将夫選考委員長および他選考委員により審査が行われていること、エントリー演題数が基礎研究領域63題、臨床研究領域5題、創薬・開発領域35題(計103題)であったこと、ファイナリスト対象演題として13題を選定したことが報告された。

2) 本委員会企画の共催シンポジウムの開催概要について報告された。

◆10月10日(木) 9:00 - 11:30

「学会活動活性化委員会企画・日本TDM学会&日本薬物動態学会共催シンポジウム:医薬品適正使用における薬物動態・毒性インフォメーションの有効活用」(Best Use of Pharmacokinetic and Toxicologic Information for Rational Use of Drugs)

オーガナイザー:谷川原祐介(慶応義塾大学)、齋藤秀之(熊本大学病院)

越前宏俊(明治薬科大学薬物治療学)

志賀 剛(東京女子医科大学循環器内科学)

木村利美(東京女子医科大学病院薬剤部)

奥平典子(第一三共株式会社研究開発本部薬物動態研究所)

山田 弘(医薬基盤研究所 創薬基盤研究部)

2. 今後の事業活動等について意見交換を行った。

#### ■フォーラム委員会 F2F 会議 議事録

日 時:2013年10月10日(木)11:30~13:00

場 所:タワーホール船堀 405 会議室

出席者:(敬称略)川合良成(委員長)、永田清(副委員長)、内藤真策、松崎豊、水間俊、山田英之、吉村義信

#### 1) Forum 2013 最終準備・確認事項

- ① フォーラム開催手順:昨年同様、各講演につき委員 1 人ずつ座長を勤め、会議後の各講演者ごとの総括・まとめを担当する。発表順は、川合(イントロ)→石川(川合;座長、以下同様)→平山(吉村)→今村(内藤)→川合(水間)→坂口(永田)とする。総合討論は壇上に講演者 4 名を招き、委員長(川合)が司会進行のもと、課題の整理、対応の提案の順に議論する。
- ② アンケート用紙案は委員会にて同意され、事務局(conet)に印刷・配布を依頼する(川合対応)。当日の配布・回収は松崎委員が主導
- ③ 昨年同様、委員会にて総括を作成・年会 HP に報告する旨確認。

#### 2) JSSX 内での今後の位置付けについて:要点

- ① 従来どおり年会最終日午後 3 時間枠で今後も継続すべき
- ② 企業の視点で将来重要となると考えられる研究領域・テクノロジーを先取りし、今後 JSSX 及びその会員が、医薬品開発においてそれらに取り組むのに必要な情報、ノウハウを提唱する。
- ③ 講演はJSSX内外、薬理・毒性・レギュラトリーサイエンスなど他学会、大学・規制当局等、あらゆる分野から招聘する。
- ④ 取り組むべき研究領域・テクノロジーは日々進化、変化しているものであり、本委員会は長期的な展望を常にアップデートし、複数のテーマ・スコープをリストして明確化し、さらに

JSSX 内での活動、WS/SC、DIS と情報を共有する。

- ⑤ このような情報共有と意見交換を基に年会におけるフォーラムのテーマを策定し(つまり継続的に進展状況を把握した複数の候補テーマから1年、2年後のテーマを選ぶ)、JSSX 会員に最先端の情報を提供する。
- ⑥ また、このプロセスを通して各 DIS の方向性、複数 DIS 間での関連性等についても支援できるよう配慮する。

### 3) アクションプラン

- ① フォーラム 2013(10月11日 13:00-16:00)当日 12:00 時より全講演者を招き、昼食を兼ねて簡単な打合せを持つ(全委員)
- ② フォーラム 2013 のまとめ作業、今後のフォーラムの位置付けについて更に審議するため 10月19日(土)を第一候補に電話会議を持つ(川合対応)

#### □フォーラム委員会電話会議 議事録

日 時:2013年10月19日(土)9:30~10:15

PGI 社電話会議サービス

出席者:(敬称略)川合良成(委員長)、永田清(副委員長)、内藤真策、松崎豊、水間俊、山田英之、吉村義信

1) 議事録(10月10日、F2F 会議;船堀)について最終案承認

2) Forum 2013 を振り返り

- ① 委員長より私見:例年より早期の年会開催だったため年頭より準備を開始し予定通りテーマ、講演者が決定したが、評議員からの事前調査や協力を取り付けるに至らなかった。また、講演者間の事前調整もなく、全体の統一性や総合討論のメリハリに欠けたと感じた。今後のフォーラムではこれらのプロセス(1.講演者と会の趣旨、講演の骨子について事前調整、2.委員会を中心に評議員の意見収拾)を定型化(手順書?)しておくべきでは。今回、年会運営事務局とのコミュニケーション、サポートが良好に得られなかった点も反省材料で、この点についても毎回確認が必要と考える。
- ② アンケート用紙(150枚)は全て配布;概算で170名程度の参加
- ③ フォーラム開催手順:ほぼ時間通りに進行。山田委員をはじめ委員メンバーが積極的に質問に立ち議論を進めてくれた。但しそれ以外からの質問は少なかった。やはり、評議員への事前情報等がなかったためと考えられる。
- ④ フォーラムは全体としてはまとまっていたが講演・トピック間の流れ繋がりにつけ、フォーラムの趣旨はテーマの方向性を掴みづらかったと思われる。演者間の繋がりも重視すべきだろう。委員会を中心に評議員と積極的に協働すべき。
- ⑤ フロア側に比べ壇上で音が聞きづらかった(特に座長席で)。昨年も同じ会場であった

が、音響の設定等確認しておくべきだろう。

- ⑥ 年会要旨の公表(今年はウェブ公開)が年会直前と遅く、ウェブ接続も悪かった。これも Q/A や総合討論で積極的な参加が少なかった原因と考える。

### 3) まとめ、総括作成作業

#### ① アンケート集計:

- ① 永田副委員長がアンケートを既に文書化しメールにて委員会で共有済み
- ② 委員数名でまとめ作業するのが効率が良いだろう(永田、吉村、松崎委員)

#### ② 総括ドラフト

- ① 各講演の座長はそれぞれの講演骨子を数行で作成、委員長に送付
- ② 総合討論内容について水間、内藤、山田委員らから要点が挙げられた。
- ③ 委員長はこれらを基に総合討論のまとめドラフトを作成、委員会と共有する。

- ③ 以上作業は11月1週目を目処に実施、11月中全ての最終化を目標とする。

### 4) JSSX 内での今後の位置付けについて

- ① 10月10日のF2Fで協議、まとめた案で最終化することで合意した。
- ② これをまず委員会の議事録の形で理事会提出。また、学会HPやDMPK誌ニュースレターへの掲載についても、他の成果物の出来上がりを見て検討する。

### 5) フォーラム実施手順書作成と委員会引継ぎについて

- ① 来年度(2014)はフォーラムが予定されていない(JSSX2014はISSXと共催)ため、2015年以降のフォーラム実施のために手順書は必要と考えられる。

- ① 内藤、山田委員が中心となり手順書の雛形作成(11月初めを目処)

- ② その後委員会にて議論、最終化を目指す(11月中を目処)

- ② 手順書に加え、現委員会から次期委員会への引継ぎをしっかりとすべき。特にフォーラム委員長はDISや他の企画の中心とならず、フォーラムに専念できるよう提案する(委員長対応)

### 6) アクションプラン

アクション項目	担当	タイムライン
各講演の骨子作成	各担当座長	11月6日まで
総合討論総括	川合	11月6日まで
アンケートまとめ作業	吉村、永田、松崎	11月6日まで
フォーラム実施手順書ドラフト	内藤、山田	11月6日まで
次期委員会への引継ぎ	川合	12月理事会まで

以上

#### ■NL 編集委員会議事録

日 時:2013 年 10 月 9 日(水)12:35～13:35

場 所:タワーホール船堀 405 会議室

出席者:(敬称略)設楽悦久, 三宅正晃, 湯浅博昭(委員長)

欠席者:(敬称略)松永民秀

#### 1. 次期委員会への引き継ぎ事項の整理

現委員会での担当は今期までとなるので, これまでの 2 期 4 年の活動を総括し, 次期委員会への引き継ぎ事項を整理した. なお, 移行期に当たる 29 巻 1 号(12 月末原稿締め切り)の執筆依頼, 編集作業については, 現委員と新委員(予定者)が協力して行う予定とした.

#### ■WEB委員会議事録

日 時:2013 年 10 月 9 日(水)11:45～13:45

場 所:タワーホール船堀 401 会議室

出席者:(敬称略)寺田智祐(委員長)、山下富義(副委員長)、生城真一、加藤基浩、高田龍平、  
矢吹昌司

欠席者:(敬称略)大河原賢一

本年2月に新しくした日本薬物動態学会の WEB ページのアクセス数データを、月別、項目別にまとめた資料について分析を行った。年會が近くなるにつれ、年會へのアクセスが増えてくるなどの一定の傾向はあるものの、全体的な傾向に大きな変化は見られていない。会員専用ページについても、会員の半数以上が一度はアクセスしていることが確認されたが、論文紹介や情報交換コーナーには未だ投稿はなく、積極的な活用には至っていないのが現状である。WEB ページ及び会員専用サイトの活性化については、更なる魅力あるコンテンツの充実が必要であり、ガイドライン検索システム等の有用情報サイトの新設や論文紹介、求人情報欄の積極的な活用を引き続き検討していくことを確認した。